

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 3 4	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Socioeconomic and psychosocial exposures across the life course and binge drinking in adulthood: population-based study. 生涯を通じての社会経済的・心理社会的曝露と成人期の多量の機会飲酒に関する住民対象調査	
執筆者	
Yang S, Lynch JW, Raghunathan TE, Kauhanen J, Salonen JT, Kaplan GA.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Am J Epidemiol. 2007 Jan 15;165(2):184-93.	
キーワード	
機会飲酒、社会経済要因、幼少期、コホート研究	
要 旨	
<p>背景：</p> <p>宴会などの機会に一度に多量のアルコールを摂取すること（以下、多量機会飲酒）の健康リスクは十分に認識されているにもかかわらず、そうした行動を引き起こしうる人生上の出来事については十分に解明されていない。</p> <p>目的：</p> <p>生涯を通じての社会経済的要因および心理社会的要因への曝露と成人期の多量機会飲酒との関連を検討した。</p> <p>方法：</p> <p>1984-1989年に行われた Kuopio Ischemic Heart Disease Study の地域住民調査のデータベースのうち、2316名の中年男性を解析対象とした。多量機会飲酒は、一度に少なくともビール4本、ワイン1瓶、アルコール度数の高いワイン1瓶、スピリッツ6杯のいずれかを飲むことと定義した。幼少期の社会経済的状态は両親の教育背景・職業、部屋数といった指数によって複合的に評価され、この複合指標により3水準（高・中・低群）に分けられた。</p> <p>結果：</p> <p>幼少期の社会経済的状态の低群は中・高群に比して、他のこれまでの人生における社会経済的・心理社会的曝露を調整した成人期の多量機会飲酒者の頻度が1.70倍（95%信頼区間：1.26-2.31）であった。成人期の社会経済的・心理社会的要因を調整したところ、その関連は有意ではなくなった（オッズ比：1.29、95%信頼区間：0.93-1.79）。成人期の社会経済的・心理社会的要因である、婚姻状態、敵意性、所属組織は多量機会飲酒の独立した危険因子であった。</p> <p>結論：</p> <p>本研究の結果、幼少期およびその後の社会経済的状态を含む人生における特性と、成人期の心理社会的要因が成人期の多量機会飲酒に関連していることが示された。しかしながら、これらのなかでは、成人期の特性がより強い影響を有していた。</p>	